

# 【スイートコーン】

## ①栽培こよみ

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
作型						
露地	△-----○	-----○	-----○	-----○	-----○	-----○

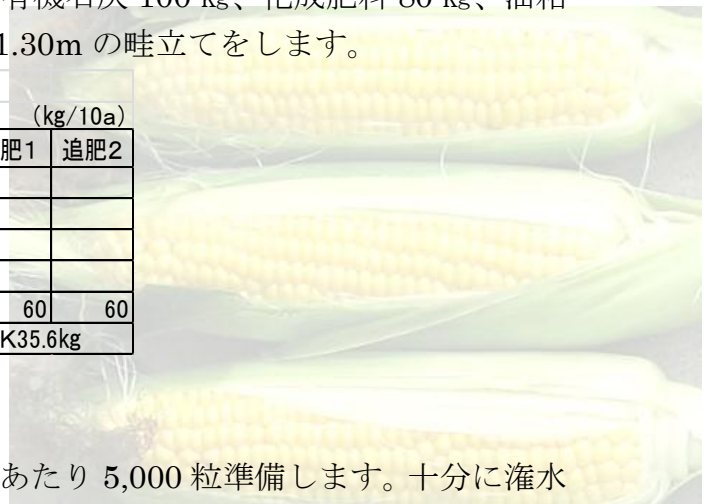
△：播種 ○：定植 ■：収穫 ----：育苗期間 ——：本圃期間

## ②栽培のあらまし

### (1) 圃場準備

スイートコーンは水に弱いので、排水性が良く日照条件の良い圃場を選びます。酸性には強いが pH5~6.5 がよく、強酸性は好みません。冬期間に耕耘し、排水を徹底します。定植 1ヶ月前に 10a あたり堆肥 2,000 kgを施用しよく耕耘します。定植 1週間前に有機石灰 100 kg、化成肥料 80 kg、油粕 120 kgを施用し、耕耘して幅 1.25~1.30m の畦立てをします。

肥料名	総量	基肥	追肥1	追肥2
牛糞たい肥	2,000	2,000		
有機石灰	100	100		
化成肥料	80	80		
油粕	120	120		
NK化成	120		60	60
成分量	N40.7kg、 P15.2kg、 K35.6kg			



### (2) 育苗

種子は発芽率 90%を見込み、10a あたり 5,000 粒準備します。十分に灌水した後、播種穴をあけ、1穴あたり 1粒ずつ播種し、覆土し灌水します。

まだ気温の低い時期であるため播種後の管理は育苗ハウスで行います。

芽出しは、納屋や倉庫内で、セルトレイを 10~15 枚程度積み重ね、保温のため毛布や段ボールをかけておきます。播種後 2~3 日経過し、全体の 5~6 割程度が覆土を持ち上げ始めたら、育苗ハウスに移動し、タル木等を用いて浮かし育苗を行います。ハウス内では、ビニールトンネルによる被覆を行い保温に努めます。晴天日の日中はビニールトンネルのサイド換気を行います。

育苗日数は 20~23 日程度（本葉 2~2.5 枚）の若苗定植を基本とし、セルトレイから苗が抜けるようになればできるだけ早く本田に定植を行います。

### (3) 定植

株間 33~36 cmの 2 条千鳥植えとし、10a あたり 4,500 本を植えます。

#### (4) 施肥

基肥は、全層に施用します。追肥は、1回目は定植後1ヶ月頃に、2回目は雄穂が見え始めた頃に条間に施用します。なお、追肥は雨や露で葉が濡れていない時に、葉にかからないように注意して施用します。

#### (5) 定植後の管理

雌穂の生育促進と受精促進のため、除けつは行いません。分けつ茎は放置してもそれ自身から根を出し、養分を吸収するので思うほど主稈の負担にはなりません。また雌穂についても特に摘果しなくても収量への影響はないため放任しておきます。極端な乾燥を避けるため、降雨が少ないときは適宜畦間灌水を行います。定植2週間頃に小型管理機により畦間の除草を行います。

#### (6) 収穫調整

雌穂の絹糸抽出後22~25日頃が収穫期です。収穫期が近づいたら試し穫りをして登熟状況を確認します。先端の粒が十分に膨らみ、粒と粒との隙間がなくなり先端の肩が張り、粒の黄色が全体に回ったら収穫適期です。朝の涼しいうちに収穫します。

### ③病虫害防除

〔アワノメイガ〕 葉裏部を食害し、やがて茎や雌穂にも食い込み食害します。

茎は食害部より折れやすく枯死する株が多くなります。防除は幼虫が植物体に食い込んだ後では効果が劣るので、ふ化直後に葉耳部分に薬が付着するように散布します。生育初期は薬量を少なくします。

〔アワヨトウ〕 幼虫が葉を食害します。若齢幼虫のうちに防除します。

〔アブラムシ〕 出穂期以降、雄穂、包皮、葉鞘、葉などに密生して生育を阻害するほか、収穫前の雌穂に寄生し、すす病の原因となり外観を悪くします。

### ④栽培上の留意点

- ・育苗はビニールハウス内で行い、良苗生産に努めます。
- ・株の生育と収量性を確保のため、必ず若苗（20~23日苗）を定植します。
- ・アワノメイガ、アブラムシを中心に害虫防除を徹底します。
- ・秀品率を上げるため、必ず1株につき1穂穫りとします。
- ・糖度の低下を防ぎ、鮮度の高い品物を出荷するため朝穫りを励行します。
- ・収穫期間を延長するため、同一品種で時期をずらすとともに、早生種、中生種等の組み合わせも考えます。